

(1) 研究課題 「生命を大切に作る心をはぐくむ道徳教育」

(2) 研究のねらい

① 道徳教育の重点目標（めざす生徒像）

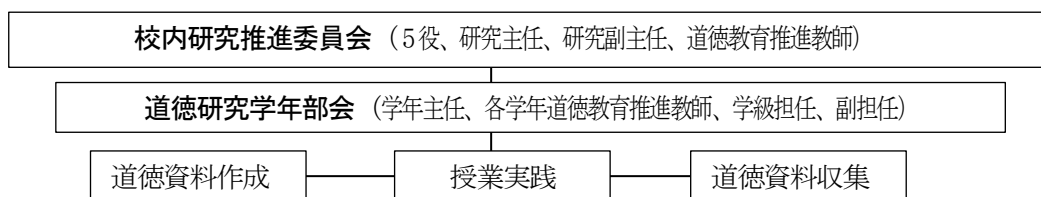
- ア. 命の大切さを知り、たくましく生きようとする生徒
- イ. 自らを律し、節度ある生活を送ることのできる生徒
- ウ. 思いやりと感謝の気持ちを持ち、社会の一員として望ましい行動をとることのできる生徒
- エ. 自分の住む地域の「ひと・もの・こと」に対する誇りを持ち、地域を愛する生徒

② 「道徳の時間」の指導方針

- ア. 生徒の実態を十分に把握し、実態に合った資料を選ぶと同時に、指導法を工夫し適切な時期での指導を図る。
- イ. 学校行事や総合的な学習等との関連を図って指導内容を年間計画に位置付け、授業前後の指導を含めて、道徳的体験活動と資料を関連づけた授業を実施する。

(3) 研究の方法

① 研究組織



② 公開授業の設定

学期に一度、各学年で公開授業を行う。校内研究推進委員会を中心に授業を参観し、手だてが効果的であったかを検証する。これにより各教員の道徳に対する意識を高めると同時に、授業の質を高める。

③ 道徳の資料活用

- ア. 「明るい人生」：愛知県教育振興会発行(最新版)
- イ. 「夢をつむいだ人々」：岡崎市現職研修委員会道徳部発行
- ウ. 「自主開発教材」

各学年で作成した指導案、ワークシートを道徳資料データベースとして保存し、誰もが即時に道徳の授業に活用できるよう充実させる。

④ 「道徳の時間」の授業改善

- ア. 発問の吟味…資料分析を深め、ねらいに迫る効果的な中心発問と補助発問を吟味する。
- イ. 具体物の提示…主題に迫るための視覚的な具体物を開発する。
(場面絵、発問カード、資料に関わる実物、模型、写真など)
- ウ. 構造的な板書計画…登場人物の心情の変容が視覚的に伝わる板書や生徒の意見を価値観別に分類した板書を行う。

(4) 研究の経過

4月10日(木) 研究推進全体会

- ・研究のねらい、組織、方法、指導計画等の確認
- ・各学年の道徳教育推進教師の選出

5月22日(木) 研究学年部会(以降隔月で実施)

- ・学年指導計画の検討
- ・公開授業指導案検討

6月30日(月)

- ・公開授業

2年4組

資料「二通の手紙」(私たちの道徳)

1年4組

資料「カストーディアル」(自作教材)

8月23日(土) 研究推進全体会

- ・講師を招聘し、道徳教育について指導を受ける会

◇講師：岡崎市道徳指導員 本郷 一毅先生

<主な指導内容>

- ① 今後の道徳教育の動向(教科化の流れ、骨子)
- ② 道徳学習指導要領の内容の詳細
- ③ 実践事例紹介
「岡崎市『いのちの教育アクションプラン』」
「行事と関連させた実践」
「テーマ発問」

10月9日(木) 市指導主事訪問

- ・公開授業 山本公三教諭 2年4組

資料：夢をつむいだ人々

「日本赤十字の父 大給恒」(岡崎市現職研修委員会道徳部発行)

10月29日(水)

- ・公開授業 藤野智世教諭 1年3組

資料：「ひびけ歌声」(明るい人生)

1月13日(火)

- ・公開授業 山本梓教諭 3年2組

資料「卑劣なネットいじめはNo!」(日本視聴覚教育協会)

1月20日(火)

- ・公開授業 杉田冬樹教諭 2年1組

資料「ぼくは伴走者」(「資料を生かしたジレンマの授業の方法」明治図書)

3月20日(木) 研究推進全体会(予定)

- ・今年度の研究のまとめ
- ・次年度研究概要の確認



公開授業(1年生)



公開授業(2年生)

研究の手だてとしては、①公開授業の設定 ②道徳資料データベースの活用 ③授業改善（発問の吟味・具体物の提示・構造的な板書計画）を3つの柱とした。以上の3つの視点を中心に研究の成果を述べる。

（1）学年単位での「授業モデル案」づくりと積極的な授業公開

命を大切にすることを育むために、どのような方法で研究を進めるのか。年度当初の研究推進全体会で岩津中道徳研究のキーワード（教師の基本的な心構え）を提案した。

「気軽に。でも、ちょっとだけ無理して教材研究しよう。」

「学年教師全員で協力して授業づくりをしよう。」

「授業を公開し、互いに勉強しよう。」

本校では平成25年度から道徳の研究を進めているせいか、いわゆる「道徳アレルギー」を示す教師はほとんどいない。だが、道徳の研究授業が決まった途端、身構えたり重圧を感じてしまったりする若い教員がいた。まずは、そんな意識を変えたいという思いから、前述のキーワードを示したのである。すなわち、学年の道徳教育推進教師を中心とした学年単位で授業づくりを進め、その「授業モデル」を学年全員で実践していくという方法である。軌道に乗るまで苦労はあったが、学年の研究部会ではベテラン教師の助言を受けながら、若手が気軽に意見交換し合う姿が見られるようになった。

【成果】

- ① 多くの教師で指導内容を吟味して進めた結果、授業の質の高まりがみられた。
- ② 学年部会で作った案に沿って授業を進めるという安心感から、若い教師にも自信を植え付ける効果が生まれた。

（2）道徳資料データベースの活用

指導計画の中にどんな資料を用い、指導計画の中にどう位置付けていくべきか。前年度から継続収集してきた資料を前に、今年度の研究課題に沿って見つめ直してみた。そこで明らかになったのは、「命を大切にすることははぐくむ」といっても、やみくもに命に関連する資料を用いればよいというものではないことである。大切なのは、命を大切にすることの基となるものは何かを明らかにし、きちんと定義することだと考えた。岩津中では、これを「命を大切にすること＝自己有用感」と捉えた。すなわち、自他の命を大切にするには、自分自身がかけがえのない存在として大切にされていると感じられなければならないと考えたのである。



一心不乱に意見を書く生徒（私たちの道徳）

こうした視点に基づき、資料収集を行った。しかし、毎週行う道徳の授業すべてを新たに作り直すのは膨大な労力が必要であり、研究として継続するのは難しい。そこで、月に1題材を研究するペースで進めてきた。

【成果】

- ① 道徳資料と指導案が、岩津中の「道徳資料データベース」に追加・蓄積され、「命を大切にする心=自己有用感」を育てる資料が充実した。
- ② この「道徳資料データベース」を積極的に授業に活用することで、学年のすべての教師が均質な授業の質を確保することができた。

(3) 授業改善

道徳教育推進教師を中心とする授業実践と実施後の分析を通して、さまざまな授業改善を図ってきた。中でも「発問の吟味・具体物の提示・構造的な板書計画」という視点で、すべての教師が力を伸ばすことを目標に実践を深めた。下の写真は、山本教諭の授業後の黒板の写真である。授業後の板書を中心に授業分析をすることで、どのように視覚的・構造的な板書を行えばより主題に迫ることができるかを明らかにした。



【成果】

- ① 主題に迫るための具体物の提示と構造的な板書については、どの教師も共通理解が図られ、自分の意見に自信をもてない生徒も進んで発言するようになった。
- ② 授業後の感想の中に「道徳の授業は楽しい」と感じる生徒が増えた。

5 今後の研究計画

学習指導要領に記されているように、道徳教育は道徳の授業時間以外の活動にも関連させ、学校の教育活動全体を通して行われるべきものである。さらに、自己有用感を感じ、自他の命を大切にする心が育っているかは目に見えにくい。本校では、道徳の時間以外にも総合的な学習の時間、特別活動、学校行事など、様々な場で自己有用感を味わわせる活動に取り組んできた。今後もこうした活動を持続・深化発展させていきたい。

また、道徳の授業の中では、今年度の反省として出てきた「発問の吟味」を中心課題として道徳教育を充実させたい。



「ありがとうの手紙」(文化祭)
家族、友達、先生など周りのすべての人宛てに書いた感謝の手紙